公益財団法人渋沢栄一記念財団
新一万円札発行記念

「渋沢栄一　つたえる・つながる・つくる」取り組み

公益財団法人
渋沢栄一記念財団
Shibusawa Eiichi Memorial Foundation

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

公益財団法人渋沢栄一記念財団

公益財団法人渋沢栄一記念財団は、1886（明治19）年、かつて東京・深川にあった実業家、渋沢栄一邸の書生部屋に寄寓した青年たちが作った「竜門社」が原点です。栄一から多くのことを学び、お互いに勉学に努め、成果を発表しながら、長年にわたり、栄一の思想と事績を伝えてまいりました。

初期竜門社員　明治27年頃

竜門社の旗（尾高次郎書）

〔渋沢史料館所蔵〕

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

公益財団法人渋沢栄一記念財団

1982(昭和57)年には、栄一が晩年に過ごした東京・飛鳥山に博物館「渋沢史料館」を開館し、栄一の調査や研究をはじめ、展示、教育普及活動を行ってきました。以降、栄一研究のさらなる推進を図るとともに、関係資料などをデジタル技術等により資源化を行い、広く社会に提供しています。また、栄一に関心を持つ人々、研究者、さらに栄一ゆかりの企業や団体の皆様とつながりを広げる活動を行っています。

渋沢史料館

晩香廬（国指定重要文化財）

青淵文庫（国指定重要文化財）

〔写真：渋沢史料館所蔵〕

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

私たちが取り組もうとしていること

　2024年7月に、渋沢栄一が肖像となる新一万円札が発行されます。

　皆様に、栄一の思想、事績を知ってもらい、日常において、栄一をさらに身近に感じ、親しみを持っていただく機会となれば大変嬉しく思います。

　そこで、栄一が大切にしていたことを、あらためて、皆様にお伝えしたいと考えました。

渋沢栄一　70歳　〔渋沢史料館所蔵〕

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

渋沢栄一が大切にしたこと

渋沢栄一の91年の生涯を振り返ると、
栄一が大切にしていたことは３つあると思います。

「つたえる・つながる・つくる」

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

思いを「つたえる」

渋沢栄一は、人と直接、会って対話をすることを大切にしました。講演会や講話、面談などでは、考えや思いを自らの言葉で伝えていました。直接人と出会うことで、その人を理解しようと努力し、多くの人と関わることを大切にしました。

時にはその場の雰囲気に合わせて言葉を選び、ユーモアを交え、自分の経験を活かし、前向きな考え方を伝え、自分の目指す社会や未来について語りました。

実業之世界社創立満二十周年祝賀講演会　青山会館 昭和2年6月5日〔渋沢史料館所蔵〕

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

人と「つながる」

渋沢栄一は、日本の近代化のために、多くの人と問題を共有し、チカラを合わせてさまざまな事業を成し遂げました。これこそが栄一が目指した「合本主義」の姿です。

栄一は、故郷・埼玉県深谷市の農家に生まれました。村びとを気遣い、村びととともに豊かに暮らすことを大切にした父母の教えは、栄一の中に根付きました。

栄一は、人々とともに考え、助け合い、 分かち合うことを信念とし、実践しました。そして、その行動が、多くの人々とつながり大きなチカラとなって、人の心を動かし日本や世界を動かしました。

デニショーン舞踏団招待　1925年9月23日　飛鳥山邸内晩香廬前にて〔渋沢史料館所蔵〕

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

豊かな社会をともに「つくる」

渋沢栄一は、自らが人々に声をかけ、自分の考えをつたえ、人々とつながることを大切に行動しました。そして、人を敬い、慈しむ「忠恕」の心を大切にしました。

栄一の唱えた、「合本主義」による経済社会の発展によって、誰もが豊かに暮らすことのできる社会は決して簡単にはつくれません。

すべての人が同じ思いを持ち、取り組もうとしてこそつくることができます。栄一は、それを生涯実践し続けました。

国際聯盟協会主催東洋赤十字会議　飛鳥山邸 大正15年11月23日〔渋沢史料館所蔵〕

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

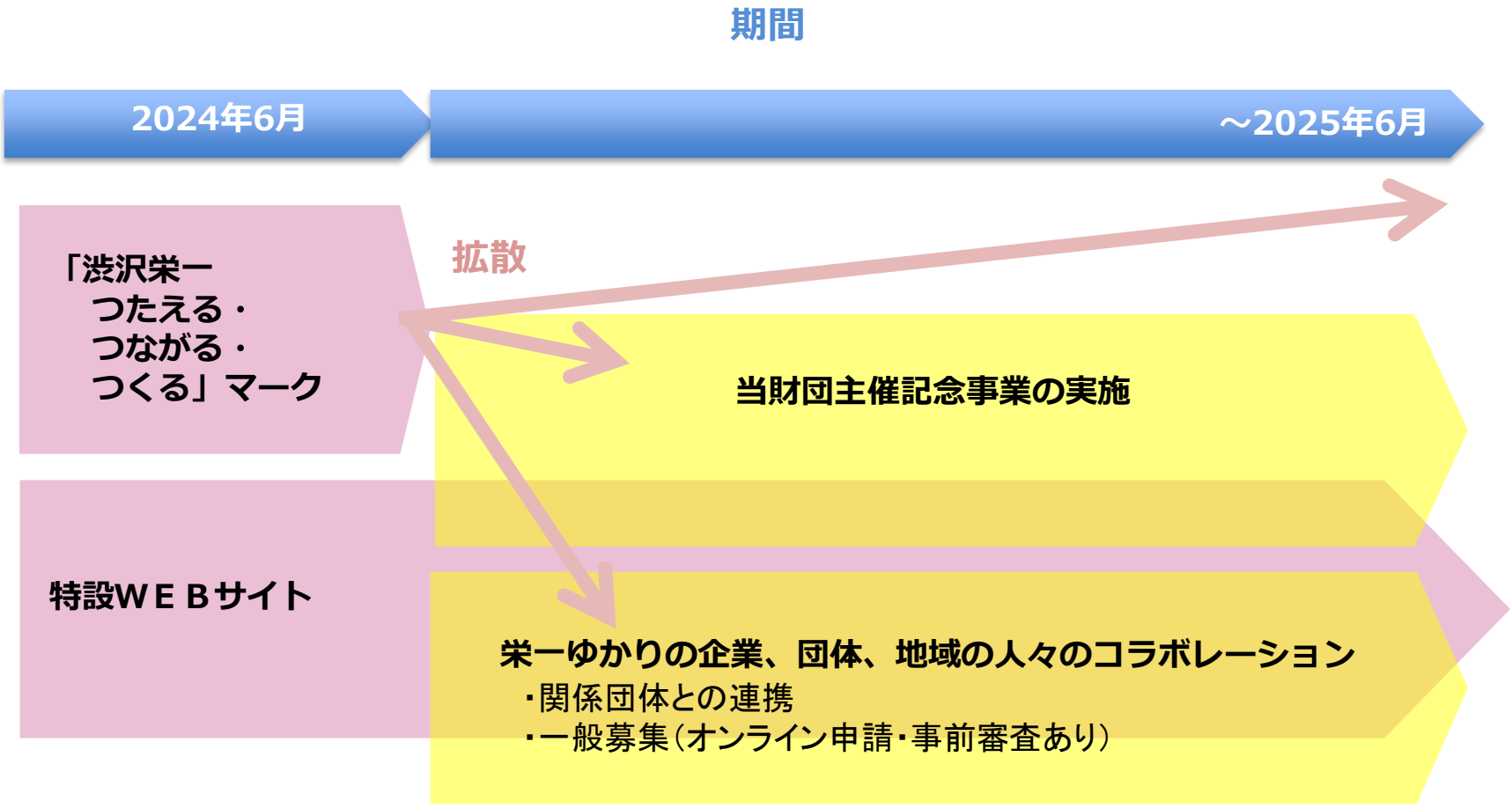
詳細

「渋沢栄一　つたえる・つながる・つくる」マーク
ビジュアル・コンセプト

私たちの発信する「渋沢栄一　つたえる・つながる・つくる」をカタチにします。
70歳の渋沢栄一肖像と、渋沢家の家紋「丸に違い柏」から柏の葉をモチーフに１つのマークにしました。

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

渋沢栄一記念財団が発信する
「渋沢栄一　つたえる・つながる・つくる」
活動展開予定



© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

詳細

「渋沢栄一　つたえる・つながる・つくる」マーク
ビジュアル・コンセプト

新一万円札の肖像に選ばれた70歳の渋沢栄一像を、柔らかなペンシルタッチで表現し、栄一の大切にしたメッセージを配しました。

渋沢栄一から発している緑色の柏の葉は「つたえる・つながる・つくる」を実践し、みなさんと強く、固く、しなやかに結ばれることを表しています。

◎「公益財団法人渋沢栄一記念財団」と「新一万円札発行記念」の２種類のバージョンがございます。渋沢栄一の周囲に沿って、より「つながる」をイメージいただけるよう、円環状に配しました。

私たちの発信する「渋沢栄一　つたえる・つながる・つくる」をご理解いただき、
渋沢栄一に関連する企画を実施される団体のみなさまにもご使用いただけます。

マークの申請方法、審査後（許諾後）のマーク使用ガイドラインをご参照ください

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.

詳細

当財団主催記念事業　2024年6月現在

展示、講演、講座、刊行物などで渋沢栄一をつたえる事業を掲載します。

〇特設サイト
https://2024special.shibusawa.or.jp/
2024年6月18日 公開

〇新一万円札発行記念企画展「渋沢栄一肖像展　Ⅱ 造形作品」
絵画、彫刻など、栄一の姿をうつした造形作品を紹介します。
会期：2024年6月29日～11月24日
会場：渋沢史料館

〇講座「飛鳥山邸のおもてなしから学ぶ」
渋沢栄一が人と直接会い、対話をすることを大切にしたことに習い、栄一の邸宅跡で学ぶ講座です。
開催日：2024年7月7日　13:30～14：30（申込は締切ました。）
会場：渋沢史料館青淵文庫
https://www.shibusawa.or.jp/museum/event/2024/post_6.html

〇第220回渋沢栄一記念財団竜門社会員総会・記念講演会
会期：2024年7月29日
会場：日本工業倶楽部
※詳細はwebをご確認下さい。

〇青淵忌
渋沢栄一の命日（11月11日）に栄一を偲ぶ事業を今年も実施します。
開催日：2024年11月10日　※本年は命日より1日早く開催します。
会場：渋沢史料館ほか

〇書籍『渋沢栄一の言葉（仮）』
販売予定：2024年7月上旬

© Shibusawa Eiichi Memorial Foundation All rights reserved.